ぶらり なんたん ㉑

～清源寺(せいげんじ)の木喰仏(もくじきぶつ)～

心にまあるい微笑(ほほえ)み、木喰さんの仏像

「木喰さん」といえば、八木町諸畑の清源寺の微笑みの仏像。にこにこ微笑む羅漢さん、ウインクをする羅漢さん、いたずらっ子をしかる羅漢さん、恥ずかしげに顔を隠す羅漢さん。心にじんわり語りかけるこの仏像は、木喰上人の最高傑作と言われます。

木喰上人（木喰五行明満上人）は、五穀を断ち、水で溶いたそば粉と木の実のみを食す「木喰戒」という苦行を四十五歳から九十三歳で没するまで生涯続けました。全国を歩き回って仏像を彫り、六十歳で千体造仏を志します。木喰上人の歩いた道には足跡のように仏像が残されています。



▲千体目の造仏となった「釈迦如来」



▲木喰上人の自刻像といわれる「阿氏多尊者(あじたそんじゃ)」

文化三年（一八〇六）、木喰上人が清源寺を訪れたのは、八十九歳の時。約五ヵ月の滞在の間に二十八体の仏像を彫り上げ、ついにこの地で千体造仏を満願したそうです。現在、清源寺には十六羅漢像や、千体目の釈迦如来(しゃかにょらい)など二十二体が安置されています。

すべての像にまあるい温かさが表れ、包み込むような優しさがあります。心を澄ませると、「よう来なさったなぁ」「ほら、酒でもどうじゃ」「こらこら、いたずらはいかんぞ」と、聞こえてくるようです。

ぶらり案内人



清源寺ご住職　太田　元龍(げんりゅう)さん

清源寺の太田元龍ご住職に、木喰仏について話をお伺いしました。「清源寺の木喰仏には、すべてに微笑みがあります。ウインクというものが当時あったのでしょうか。『めっ』といたずらっ子をしかるしぐさかもしれませんが、片目を閉じた表情など、一つひとつに親しみがあふれる仏像です。東京国立博物館でこの木喰仏を展示した際、33万人もの方が見に来られました。歴史ある京都には文化財が多数あり、十分な保護を受けられるのは一部のものになりますが、貴重な文化財産として丁重に保存し、より多くの方にこの木喰仏の微笑みを見ていただけるようにと考えています」

木喰さん　（小泉麟雄(りんのう)氏作詞）

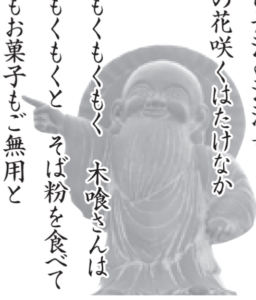
もくもくもくもく　木喰さんは
てくてくてくと　諸国をめぐり
ひょっこり　ぶらりとやってきた
ここは丹波の清源寺
そばの花咲くはたけなか

もくもくもくもく　木喰さんは
もくもくもくと　そば粉を食べて
お茶もお菓子もご無用と
ふとん　まくらもいらないと
夢の花さく　ござの中

もくもくもくもく　木喰さんは
こつこつこつこつと　朝星夜星
やっとしあげた　夢枕
これで千体まんがんじょうじゅ
あみだほとけが　雲の中

もくもくもくもく　木喰さんは
にこにこにこと　にっこり笑い
片目つぶって　ウインクしたり
お酒飲んでる　らかんさん

もくもくもくもく　木喰さんは
やれやれやれやれやれやれやっと
約束果たして　十六羅漢
寺におさめて　サヨウナラ
お経をとなえて　霧の中



▲道しるべの木喰さん